

小田原市教育委員会臨時会会議録

1 日時 平成22年7月26日(月)午後7時00分～午後9時00分

場所 小田原市役所 全員協議会室

2 出席した教育委員の氏名

1番委員 山田浩子

2番委員 前田輝男 (教育長)

4番委員 和田重宏 (教育委員長)

5番委員 山口潤

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

学校教育部長 川久保 孝

教育総務課長 曾我 勉

教職員担当課長 長澤 貴

教育指導課長 西村 泰和

教育指導課長補佐兼指導主事 栗畑 寿一郎

教育研究所長 小泉 信二

教育指導課指導主事 岩崎 由美子

教育指導課指導主事 米山 好絵

教育指導課指導主事 高田 秀樹

(事務局)

教育総務課長補佐・総務担当主査事務取扱 向笠 勝彦

教育総務課上級主査 瀬戸 英樹

4 協議事項

(1) 平成23年度使用小学校教科用図書採択に向けての協議について(教育指導課)

5 議事等の概要

(1) 委員長開会宣言

(2) 会議録署名委員の決定…山田委員、前田委員に決定

(3) 協議事項 (1) 平成23年度使用小学校教科用図書の採択に向けての協議について (教育指導課)

教育指導課長…それでは、本日の協議事項 (1) についてご説明申し上げます。小学校教科用図書の採択につきましては、新学習指導要領の完全実施の平成23年度にあわせ、各教科書会社が文部科学省の検定を経た教科書の中から、小田原市の児童に最も相応しい教科書を、教育委員の皆様が採択権者として採択していただきます。これから1種目ごとに協議していただき、8月5日の臨時会で採択の決定をしていただきます。本日の臨時会及び7月29日の定例会においては、採択の前段階として、種目ごとに協議をしていただくものです。具体的には、本日は国語、書写、社会、地図、算数、理科、音楽の7種目について協議をしていただき、29日には残りの図工、家庭、保健、生活の4種目について協議をしていただきます。そして、8月5日の臨時会において、小学校教科用図書の採択をしていただきます。本日及び29日の協議の実際ですが、すでに県教育委員会の作成した「平成23年度使用小学校教科用図書選定に係る調査研究資料」を7月1日に、さらに小田原市の調査員が作成いたしました「平成23年度使用小学校教科用図書調査研究報告」につきましては7月14日にそれぞれ教育委員の皆様へ郵送させていただいております。これらの資料に加え、教育委員の皆様が、独自に調査研究していただいたものをもとに協議していただき、最終的に、小田原の児童にとって、最も相応しい教科書を選んでいただくこととなりますのでよろしくお願いいたします。

和田委員長…それでは、これから教科用図書採択のための協議を始めます。具体的には、それぞれの種目について神奈川県教科用図書調査研究の観点をもとにして、2社ぐらいの候補をあげていきたいと考えております。各委員におかれましては、限られた時間の中で膨大な資料を検討されたことと思います。また、私自身もそうですが、手元にたくさんの資料や検討結果を持っていますので、教科ごとに整理しながら進めていきたいと思っております。

のでよろしく申し上げます。

①種目 国語

和田委員長…では国語科の教科書から始めます。県教育委員会からの資料、小田原市の調査員の先生方が作成した調査票を、皆さんは詳しくお読みいただいておりますので、本日の国語の協議の際の柱として、いくつか観点を絞り込みたいのですがいかがでしょうか。

山田委員…それぞれの会社の教科書について私を感じたことを申し上げさせていたきたいと思います。まず光村図書の教科書ですが、表紙の裏にある「学習する皆さんへ」というコーナーで、教科書で使っているしるしの解説を載せてあり、とても分かりやすいと思いました。また、学年別で、児童の発達段階に応じた魅力的な読み物が多いと感じました。例えば、1年生だと「くじら雲」、「おむすびころりん」、2年生だと「スイミー」、「スーホの白い馬」が載っています。3年生だと「ちいちゃんのかげおくり」が載っており、子供たちに平和の大切さを感じさせるものだと思います。また、5年生で高見順の「われは草なり」という詩がありましたが、子どもたちにはとても良い内容だと思います。それから「千年の釘にいどむ」という薬師寺の木の釘を再建する方の話も載っていましたが、他の教科との関連も求められている中で、社会科との関連という点でとても良いと思いました。また、物語の作者の簡単な紹介や、その作者の他作品の紹介も載っているのも、子どもたちがそれを参考にして、他作品を読む手助けになると思います。どの会社の教科書も本を紹介するコーナーはありますが、特に光村図書の「本は友だち*さあ、図書館へ行こう」という3年生の教科書に載っているコーナーでは、子どもたちが学校の図書館だけではなく、公の図書館に行った時に、具体的にどのように本を借りるのが紹介されていて良いと思いました。

和田委員長…山田委員から全体について発言していただきましたが、発言される方も、聞かれている方も、1つずつ、ある程度の観点を括っていただけたいと思います。また、個々の部分で重複しても構いませんので、仰っていただければと思います。

前田教育長…国語科の教科書採択における内容選択の観点としては、各領域、具体的に

は「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」での、学習指導要領に示された言語活動例の取り上げ方の適切さ、伝統的な言語文化の教材例の取り上げ方の適切さ、学年別漢字配当表に配当されている漢字や新出語句の提示の適切さの3つが挙げられると思います。

和田委員長…では、前田委員から発言がありましたように、3つの観点という括りで進めていきたいと思います。

まず、最初に指摘のありました「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」といった言語活動例の取り上げ方という観点で私が感じたことは、三省堂では「わたしの本だな」、光村図書では「本は友だち」、学校図書では「読書案内」のように、学んだことを読書活動に結びつけようとしている点については評価出来ると思います。さらに、読書活動の支えは図書館の利用ということになりますので、三省堂の「小さな図書館」や学校図書の「図書室で本を探そう」のように特別にページを設けて丁寧・親切に説明していることは評価出来ると思います。

前田教育長…先ほどの山田委員の発言と重複する部分があるかも知れませんが、光村図書の教科書は、発達の段階に即して意見を述べ合ったり、討論したりできる材料となる教材が取り上げられていると思います。言語活動が具体的にイメージしやすく、言語感覚を磨くための言語活動例も多く示されていると思います。それに加えて魅力的な読み物教材が配置されていると思います。

山口委員…どの教科書も面白く、読むと引き込まれる内容になっており、どの教科書が良いということはすごく難しいが、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」といったことでは5年生くらいの上級生の教科書で「話すこと」をレポートにまとめて、みんなに発表しようというものがあった。これは社会でも理科でもそうですが、今後、色々なことを発表する機会が増えていく時に、どのようにうまく発表すれば良いかといった例がたくさん出ていました。例えば、学校図書や光村図書は、表とグラフを使って発表しようというものがあり、東京書籍と教育出版はパネル討論をさせるようなものがあった。また、三省堂は社会科見学に行った場所の写真を撮って、それを使ってレポートをみんなに発表しようというものがあった。これらはどれが良い

ということではないのかもしれないが、他の教科にも共通して、児童が発表することの大事さをうまく取り上げていると思いました。

前田教育長…教育出版では中学校の学習に関連して、6年生の下巻に「中学生になるみなさんへ」というコーナーがあり、司馬遼太郎氏の「21世紀に生きる君たちへ」が取り上げられている。また、山口委員の発言の中にもありましたが、調べたことやまとめたことを多様な方法で話したり、聞いたり、友だちと関わったりする討論会やパネルディスカッションを取り上げているということは素晴らしいと思います。

山田委員…私も教育出版の6年生の教科書で、「中学生へのメッセージ」として司馬遼太郎氏のものがあり、とても感動しました。私が読んでも勇気をいただくような素晴らしいメッセージであり、是非とも子どもたちに読んでもらいたいと思いました。

和田委員長…本日、桑原委員は欠席ですが、事務局に意見は届けられていますか。

教育指導課長補佐…桑原委員は光村図書を薦められていました。具体的には4点を理由として挙げられていました。1つ目は、文章のフレーズ間が最も自然であるということ、2つ目は、声を出して楽しむ、聞いて楽しむという演習がされていること、3つ目は、巻末の漢字のまとめが非常に役に立つということ、4つ目は、6年生の「続けてみよう」という、自主性を促す項目が有意義であることです。その4つの視点から、光村図書を推していただきました。

和田委員長…「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の言語活動例の取り上げ方という観点からは、それぞれの委員からご意見いただきましたように、三省堂、光村図書、教育出版といった3社が評価が高いということでしょうか。

それでは次に、伝統的な言語文化の教材例の取り上げ方という観点ではいかがでしょうか。私が感じたことを最初に申し上げますと、光村図書は4年生で「知ると楽しい故事成語」、5年生で「竹取物語」、「枕草子」、「平家物語」、さらには「声に出して読もう」のコーナーで「論語」、そして6年生では狂言「柿山伏」を取り上げるなど、伝統的な言語文化の教材量では、他社より群を抜いて多かったように思います。しかも、伝統的な部分

では能や文楽等があるのですが、狂言という比較的分かりやすく親しみやすいものを取り上げて、室町時代の言葉が学習出来るような配慮をしているというところで、評価に値するのではないかと思いました。

前田教育長…光村図書もそうですが、学校図書や三省堂も俳句や短歌の持つ独特のリズム、響きを感じ取ることを大切に教材を取り上げている点で共通しており、どの教科書も評価出来ると思います。教育出版では、俳句で湯河原出身の黛まどか氏の「薫風」が取り上げられていました。また、同じく教育出版では「季節をキーワードに、言語の感覚を養う態度を育てる」ということで、「いなばのしろうさぎ」、「春涼」や、古典、漢文、「枕草子」、「竹取物語」、「平家物語」といったものが数多く取り上げられているような気がしました。

山田委員…東京書籍は3年生の下巻で「俳句に親しもう」というものがありますが、俳句の成り立ち等が載っており、とても分かりやすいし、日本の美しい自然の写真もあり、子どもたちが写真を見ながら俳句の世界に親しみやすいのではないかと感じました。

前田教育長…東京書籍は、古典教材が写真や絵を使って豊富に紹介されており、子どもたちが親しめるように工夫されていると思います。また、三省堂では伝統的な言語文化に親しめるように、3年生以上ではリズムを感じ取りながら音読・暗唱することを意識した教材が取り上げられていると思います。

和田委員長…伝統的な言語文化の教材例の取り上げ方という観点では、それぞれの委員からの話にありましたように、各社それぞれが児童の関心を高めるような工夫をしており、どこも評価出来るということでもよろしいでしょうか。

では次に、学年別漢字配当表に配当されている漢字や新出語句の提示という観点ではいかがでしょうか。私が感じましたことは、漢字については各社とも非常に良く工夫されていると思いました。非常に学びやすくなり、その中でも三省堂の取り組みは、「漢字を学ぼう」というコーナーで結構細かく、新出漢字についての説明がありました。また、漢字の組み立てや、漢字辞書を引いて見ようとか、漢字の意味、漢字の足し算、漢字の使い分けといったように、児童の発達に応じたきめ細かい指導がなされるような配慮があったように思いました。そのような観点で、三省堂の教

科書は大変良いのではないかと感じました。

山口委員…和田委員長の仰るとおり、三省堂は単元の最初にその章で習う漢字が載っている唯一の会社であった。それを見て、予習する子もいるのではないかと思います。どのような漢字か、あらかじめ調べたりするのに興味が持てる子には良いのではないかと思います。また、今までに習った漢字がどの会社の教科書にも出ているが、学校図書と教育出版は今までに習った漢字が50音順に載っているのも、後で調べるのに使いやすいと感じました。それに対して三省堂と光村図書は学年ごとに載っているのも、1, 2年生などの最初の内は良いと思うが、後で調べるのには50音順のほうが良いのではないかと感じました。また、東京書籍は残念ながら前の学年で習った漢字だけが載っており、それ以前の学年で習った漢字があまり載っていなかったように感じたので、漢字を見ることで言えば、三省堂が最も興味を持てる内容で、次に学校図書か教育出版かなという感じがしました。

前田教育長…光村図書も本文下段で新出漢字の読みを表示しており、あわせて難しい意味の漢字を取り出し、説明している点が評価出来ます。また、「漢字の広場」というページがあり、そこで前年度学習した漢字の習熟を図っているように思います。

山田委員…三省堂は、前年度に習った漢字がイラスト入りで載っていました。例えば「面接」と「個人」という漢字では、子どもが「個人」で座っていて、先生が「面接」しているイラストがあり、子どもたちが楽しく、誤解せずに漢字の意味を理解するのではないかと思います。

和田委員長…これまでの各委員のお話を伺っていると、漢字や新出語句の関係では学校図書、三省堂、光村図書といったところでしょうか。

全体を見ると、構成・分量・装丁は、どの教科書もバランス良く配列されていますが、光村図書は、巻頭では1年間の見通しを示し、各領域の学習内容の見通しが持てることと、振り返りがしやすくなっています。高学年が1冊にまとめられていることも、学習の見通しを持つことや振り返りがしやすくなっています。また、中学校への移行についても配慮されているように思います。

それでは国語科として、候補をいくつか絞ることとなると、3つの観

点も含めて、どのようになるでしょうか。三省堂と光村図書については各委員の皆さんの評価が高かったように思いますが、学校図書、教育出版もそれに加えていくかどうか難しいところであるように思います。今日のところは協議でありますので、各委員の意見を参考に、8月の決定に向けて引き続き検討するというところでよろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

②種目 書写

和田委員長…では次に書写について協議をいたします。国語と同様にいくつか観点を挙げさせていただきたいと思います。

前田教育長…書写の教科書採択における内容選択の観点といたしましては、毛筆と硬筆の教材例の提示及び関連の適切さ、姿勢や筆記用具等の扱いについての提示の適切さ、日常生活との関連を図った教材例の配列の適切さなどが挙げられます。

和田委員長…それでは、3つの観点から検討していきたいと思いますが、まず、毛筆と硬筆の教材例の提示及び関連という観点ではいかがでしょうか。私が感じたことは、多くの出版社が毛筆の教材を1ページ分で提示している中、学校図書だけが2ページ分で提示しており、実物大の手本として子どもには参考にしやすいと思いました。

ちなみに、桑原委員からは何かご意見を伺っておりますでしょうか。

教育指導課長補佐…桑原委員からは具体的な観点としては特に意見は伺っておりませんが、書写全体としては三省堂を推されてきました。理由としては、各学年に相応しい題材が多く使われていることや、筆遣いが分かりやすく、国語科と連携した内容が随所に示されていること、実践に即した、鉛筆、フェルト、毛筆等に分けられていることを評価されていました。

和田委員長…その他に、小田原市の教科書採択検討委員の皆さんからの意見は何かありましたでしょうか。

教育指導課長補佐…検討委員の皆さんの発言の中では、良い悪いをはっきりと提示しているのが光村図書の教科書であるとの意見がありました。良い字と悪い字

という意味で言われたと思いますが、その比較が分かりやすいということでした。また、三省堂の教科書は筆圧についても丸の大きさを示している点で分かりやすいという意見がありました。

前田教育長…何社か共通していますが、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、日本文教出版は、百人一首や俳句、古文などの伝統や文化に関する内容を関連させて提示しているという点で評価出来ると思います。また、光村図書では3年生で、毛筆と硬筆の筆跡の違いを分かりやすく説明しており、筆の特徴を掴ませています。5年生では鉛筆、油性フェルトペン、筆の特徴に触れています。自分に合った筆記用具や紙の選択にも触れており、大変素晴らしいと思いました。他には日本文教出版や教育出版では、毛筆練習の内容を硬筆練習につなげており、素晴らしいと思いました。

和田委員長…それでは次に、姿勢や筆記用具等の扱いについてはいかがでしょうか。姿勢についてはどの会社も非常に丁寧に写真入りで、繰り返し説明しているように見受けられました。筆記用具についても各社詳しく、イラスト入りで説明をしているように思いました。

前田教育長…これについては全社とも丁寧に扱っていると思いました。光村図書や東京書籍、学校図書は2ページに渡って、持ち方等を載せているし、教育出版や三省堂も1ページではありますが、筆や鉛筆の持ち方や姿勢について扱っています。

和田委員長…この点については各社とも丁寧に表現しており、どこが良いというようには絞り込めないように感じました。それでは、日常生活との関連を図った教材例の配列という観点ではいかがでしょうか。

山田委員…この観点についても、どの会社も工夫を凝らしていらっしゃると思いました。東京書籍では、原稿用紙の書き方やメモの取り方、手紙、カードの書き方など、学校図書は原稿用紙や絵日記の書き方、絵手紙、うちわなど、三省堂もその他にレポートや寄せ書きの書き方などを載せていました。教育出版は年賀状の書き方を載せており、とても役に立つのではないかと思います。光村図書は夏休みの目標やお楽しみ会の目次などの扱い、工芸作品、寄せ書き、自由研究のまとめ方など、子どもたちが実際に使うものを載せていると思います。日本文教出版も絵日記や年賀状、手紙の書き方

を載せており、どれも甲乙つけ難いと思いました。

前田教育長…日本文教出版は絵日記や年賀状、見学メモ、レポート、手紙、掲示物の書き方を扱っていますし、光村図書は夏休みの目標やお楽しみ会の目次、図工作品展や寄せ書きの書き方、自由研究のまとめ方などを載せています。また、三省堂は封筒や葉書、レポートの書き方を扱っています。これについても全社ともとても丁寧に扱っていると思いましたが、その中でも特に、うちわや色紙に自分の俳句などを毛筆で書くという、いわゆる創作習字を載せている学校図書は良いと思いました。私は校長時代に6年生の書写の指導を行っていました。学校習字というものはきれいに美しく、形良く書くということだけなのですが、そうではなくて子どもたちの思いで、創造・芸術的な領域で書いていくことも大事だと思いますので、うちわや要らないお菓子の箱の裏に書いたりすることも非常に良いと思います。教育出版もそれに似て、工夫されていると思いました。

和田委員長…我々の時代は習字しかなかったので、書写としてこのように幅広く実用的なものを習えるということは、今の子どもたちは幸せだと感じました。その他に全体としてはいかがですか。表記や分量等の部分でありましたらご発言をお願いします。

山口委員…たまたま目に付いただけかもしれませんが、東京書籍で手書きとパソコンとで文章を作る比較を話し合いですさせている項目があり、このような場面ではこちらが良いというような話し合いになっているようでした。ついパソコンを使ってしまいがちですが、手書きの良さを改めて認識させることは良い取り上げだと思いました。

和田委員長…東京書籍と教育出版では「スー、トン」などの擬音を用いて、筆の動きをリズム的に扱っておりました。

山田委員…光村図書も擬音を用いていたように思います。

前田教育長…擬音もそうですが、各社ともキャラクターを登場させて、吹き出しでアドバイスをを行うのですが、非常に効果的であると思いました。

和田委員長…書写については、各社ともに甲乙つけ難く、特別に絞ることが出来ないようですので、今日の意見を参考に、8月の決定に向けて引き続き検討することによってよろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

③種目 社会

和田委員長…では次に社会科について協議をいたします。社会科の協議の観点をいくつか挙げていただきたいと思います。

前田教育長…社会科の教科書採択における内容選択の観点といたしましては、児童が社会的事象に関する基礎的な知識や技能等を習得させる工夫がなされているか、地図、統計、各種の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、児童の発達の段階に即しているか、作業的、体験的な学習や、問題解決的な学習は適切に取り上げられているかなどが挙げられます。

和田委員長…内容、構成・分量、表記・表現ともに、どの教科書も工夫がなされ、特に学習指導要領における改善事項の言語活動、伝統や文化に関する教育、体験学習等の充実が図られているようです。また、子どもたちになじみの深いキャラクターを活用したり、写真だけでなく、イラストを使い、色づかいも鮮やかにしたり、子どもの学習意欲を高める工夫がされているようです。それではまず、内容についてはいかがでしょうか。

前田教育長…どうしても小田原に住んでいると、教科書に九州や関西、東北の伝統工芸などを扱っているものよりも身近なものを扱っているほうが、興味が持てると思います。その観点から言うと、光村図書の3、4年生の中に、箱根の寄木細工や横浜、三浦などが扱われており、箱根では本間木工所がかなりのページを割いて扱われています。また、教育出版では3、4、6年生で小田原の荻窪用水や箱根関所、大名行列などの神奈川県についての学習素材が多いと思いました。加えて酒匂川、相模川から三浦半島にかけての水系が大きな地図で載っており、その中には飯泉の史跡や三保ダムの記事もあり、身近に感じる事が出来ました。

和田委員長…東京書籍は「つかむー調べるーまとめる」という流れが学年に関わらず常に一貫して編集されている。また、難しい言葉に対してはページごとに囲みで説明が付いており、社会科の学び方の基礎基本が定着するように配慮されていると思います。社会科とはいえ、いわゆる科学教育ですから、科

学という視点から「つかむー調べるーまとめる」というような順序立ては、各教科に共通して、とても良い仕組みではないかと感じました。

山田委員…教育出版では、コンピューターや情報ネットワークの使い方がかなり詳しく述べられていると思います。また、「確かめ考える。広げ深める」というページでは、書き込みをしながら学習を整理することが出来るようになってるのが良いと思いました。日本文教出版も、箱根寄木細工や陶器祭りの様子など、伝統文化などが受け継がれている様子などを記載していて良かったと思いました。

和田委員長…寄木細工など地元のものについては、いくつかの会社で重複しているので、いまいち整理しつくされていない感がありますので、次回までにきちんと整理しておいていただければありがたいと思います。

前田教育長…日本文教出版の小学生の社会では、「ことばのまど」が随所に設定されており、小田原や神奈川がないのが残念ではありますが、その単元で押さえるべき内容や語句が明確に示されています。また、道徳教育とのつながりを意識している点も評価出来ると思います。

山口委員…教育出版には「社会科ガイド」というコーナーがあり、インタビューをする際に気を付けることや、街を歩いたりした際に人にものを聞いたりする時の注意が分かりやすく載っており、とても印象に残っています。

和田委員長…では次に、構成、表記という観点ではいかがでしょうか。検討委員会で何か意見があったのであればお願いします。

教育指導課長補佐…検討委員会では、バランスの良さで言えば東京書籍が良いのではないかという意見がありました。また、神奈川の素材という部分では教育出版がとても身近に感じるという意見やスーパーマーケットの扱いがとてもわかりやすいという意見もありました。日本文教出版の小学社会は読み物的で、社会科資料集のような感じもあり、記述も詳しいため、読みやすいとの意見がありました。ただ、教科書としてはどうかとの意見もありました。

和田委員長…教科書のサイズが会社によって違うので、持ち運びの問題も多少は出てくるかとは思いますが、東京書籍のように、写真や図については大きいと見やすくなるのかなという感じはしました。

前田教育長…光村図書では5, 6年生が1冊で扱われており、分量的に資料集のような扱いで提示されているように感じました。解説的なものはあまりなかったように思います。

和田委員長…社会科について何社かに候補を絞ることは出来るでしょうか。検討委員会では東京書籍のバランスの良さを推しているようですが。

前田教育長…東京書籍に加えて、神奈川の素材の豊富さという部分で、教育出版や光村図書も良いと思います。

和田委員長…それでは、東京書籍、教育出版、光村図書の3社を候補として、引き続き検討するということが出来るでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

④種目 地図

和田委員長…では次に地図について協議をいたします。地図の協議の観点をいくつか挙げていただきたいと思います。

前田教育長…地図の採択における内容選択の観点といたしましては、基本図・部分図・資料図・索引などは適切に配列されているか、統計や各種の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、児童の発達の段階に即しているか、地図を活用した自主的な学習をするための工夫がされているかが挙げられます。

和田委員長…地図については東京書籍と帝国書院の2社ですが、どちらの地図も、学習指導要領に沿って内容を提示しており、各種の統計、データについては最新版を使うなど信頼性があり、また、地図を有効に活用することで、主体的な学習が出来るように工夫されているようですが、いかがでしょうか。

前田教育長…東京書籍は、各ページに載っている都道府県が左上に示されています。なおかつ、その都道府県の特徴を一言で表していて、把握しやすいと思いました。また、「調べてみよう」「地図のポケット」のコーナーでは、4年生から6年生までの学習内容が網羅的に取り上げられており、トピックや関連事項を掲載することで、興味関心を抱かせ、発展的に学習を進められるよう配慮されていると感じました。また、東京書籍には「おくにじまん」

というコーナーがあるのですが、帝国書院も「都道府県を紹介しよう」というコーナーがありまして、これがとても分かりやすいものになっており、歴史的な遺跡、城、寺院などが写真入りで載っています。自主的に地図帳に接していくような作りになっており、自発性を促すのには良いと思いました。

山口委員…広いエリアが載っている地図の後に、東京書籍では「おくにじまん」のように限られたエリアが大きく載っているのですが、逆にそこに載っていない都道府県は細かく見られないのが残念だと思いました。具体的に言えば、四国の南半分は20万分の1くらいの大きな地図にしか載っておらず、四国だけが見られるような地図が全くありませんでした。神奈川県については幸いにも大きく載っていますが、ただそれで良いかというと、他の地域のことを調べる時に、細かく出ていないのは良くないのではないかと感じました。ただ、東京書籍は世界の名所が正解地図を見ると記号で出ているのですが、その他にも名産が載っており、これについては良いと思いました。また、歴史の舞台についてはどちらの地図にも載っておりますが、帝国書院については年表も一緒に載っており、歴史を勉強するのには良いと思いました。世界遺産についてもどちらの地図にも載っていますが、東京書籍は正確な場所が分かりづらく、それに比べて帝国書院は細かい場所が線で引かれており、世界遺産に興味がある子どもには分かりやすいのではないかと感じました。

前田教育長…世界地図の中で帝国書院は文化や芸術など、色々な名所が載っています。

例えばハリーポッター、ベートーベン、ザビエル、フラメンコ、蛍の光など、かなり多様性があると思いました。また、神奈川県について東京書籍は1ページしか載っていないが、帝国書院は2ページを割いています。

和田委員長…お二人の委員は帝国書院を推されているようですが、検討委員会での意見はいかがでしょうか。

教育指導課長補佐…社会科の教科書と関連して、社会科の教科書を東京書籍のものにするのであれば、地図も東京書籍のものが良いのではないかと意見がありました。ただ、地図の出来としては帝国書院のほうが優れているのではないかとのことでした。

和田委員長…教科書との関連という部分も重要になってくる訳ですね。

教育指導課長補佐…社会科と地図については、関連性を持って採択することも必要ではないかとの意見もありました。

和田委員長…それでは、今日の意見を参考に、次回に決定するという事によろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

⑤種目 算数

和田委員長…では次に算数の教科書についての検討に移ります。算数につきましては、6社11種類の教科書がありますが、算数の協議の観点を挙げていただきたいと思います。

前田教育長…算数の教科書選定にあたっての観点といたしましては、算数的活動として、作業的・体験的な活動や具体物を用いた活動などが適切に配置されているか、基礎的、基本的な知識、技能の定着を図るため、発達や学年の段階に応じたスパイラルによる学習活動は適切に配列されているか、言葉・数・式・図・表・グラフなどを用いて表現したり、説明したりする活動は適切に取り上げられているかなどが挙げられます。

和田委員長…算数は最も分量が多く、大変苦勞いたしました。各社とも、学習指導要領の改善事項である言語活動の充実を図るため、ノートのとめ方や説明の仕方などが示されています。また、伝統や文化に関する題材についても、昔の教科書や問題を取り上げるなど各社とも、大切に扱っているようです。学習指導要領の算数科の目標を踏まえ、児童の興味や関心を引き出し、問題解決にあたるための算数的活動が、適切で充実しているものが望ましいのではないかと思います。それぞれの教科書についてご意見があればお願いします。私が感じたこととしましては、まず、東京書籍を見ると、1年生で算数の勉強を始めるにあたって、人や動物、パンといったような「もの」で数を表しています。数とは抽象概念ですので、児童の発達段階ではいきなり数字に置き換えるということは不可能だと思います。そこを「もの」で丁寧に算数へ結び付けていくという部分で、発達段階に応

じた対応が上手く出来ているのではないかと思いました。初期段階で算数嫌いにさせないという点ではとても良いと思います。ただし、これは算数だけではなく、理科などでも思ったのですが、低学年で良いものが必ずしも高学年でも良いかという、そうではないものがあると思います。その点で非常に評価に困りました。そのような観点で、東京書籍は初期段階ではとても良いですが、九九に入ると論理的説明がとても丁寧に、ページを費やして説明してあります。ただ、九九を習う子どもたちは、まだ発達段階であり、論理的思考が苦手であるので、語呂で覚えていくほうが良いと思います。その部分では少し、論理的説明に偏りすぎたかなと思いました。このあたりのバランスが非常に難しいと思いました。

山口委員…学年が上がって最終的には中学に上がった時に、絶対に基礎としてしっかりと出来ていないといけないと思う部分をピックアップして、6社の順位を自分なりに付けてみました。細かいことは言えませんが、分かりやすさなどの部分で、自分の中では東京書籍が最も良く、その次に大日本図書、日本文教出版が良いと思いました。

前田教育長…東京書籍は「算数を使ってみよう」の欄に、日常生活に算数が生かせる体験的な活動例を紹介しています。算数や数学については、非常に抽象的なものですので、逆に具体的に学習していくほうが分かりやすいのではないかと思います。また、算数的活動という観点から言うと、啓林館や教育出版は図形の領域では豊富であったように思います。マンホールや屋根などの、街にある図形を発見しようというものや、教育出版では垂直や平行の作業をする際に、ものさしや三角定規の写真が例示されており、具体的操作や算数的活動の仕方が教科書に載っているということでは非常に評価されると思います。

和田委員長…基礎的、基本的な知識、技能の定着を図るため、発達や学年の段階に応じたスパイラルによる学習活動は適切に配列されているかという点ではいかがでしょうか。

前田教育長…スパイラルですから、螺旋的に何回も繰り返して学習していくというニュアンスだと思いますが、啓林館は今まで学習したことを確認する意味で、新しい学年になっても図形や分数、少数などで以前に学習したものを確認

する「じゅんぴ運動」というコーナーがあるのは良いと思います。例え教科書に載っていないなくても教師はそういった授業の入り方をするのですが、そのようなものが、教科書に載っているのは良いと思います。東京書籍にも振り返り学習が出来る「ふくしゅう問題」がありますし、学校図書や教育出版も確実な習得を目指して、繰り返し学習が出来る問題が充実しています。問題数が多すぎて授業時間が足りないのではないかと感じる教科書も中にはありますが、それは教師で判断すれば良いと思います。全社ともかなりスパイラル、算数的という部分を意識されていると思います。

和田委員長…私が関わった子どもたちを見ていると、一番躓くのが、二桁割り算の演算式の部分だと思っています。発達の段階で、学校で決められているカリキュラムと個人差があるので、その発達がうまく合わず、ちょうどその狭間に入ってしまった子どもたちがここで自信をなくすという傾向が、よく現場では見られました。その点で、学校図書は二桁割り算にうまく工夫をしていたと思います。簡潔な言葉で順序立って演算が説明されており、ある種、機械的な表現で計算が順序立てられていることで、躓きが解消されるということは結構あるのではないかと思います。全部論理的に把握した上で計算しなさいという投げかけ方をすると混乱をきたすことがあると私は感じていますので、その点では学校図書はよく考えられていると思いました。

前田教育長…今の件に関連しまして、大日本図書では「思い出そう」の欄があり、既習ページの縮尺版が載っているなど、各社色々と工夫されているなど感じました。また、思考力、判断力、表現力が言語活動についても強調されており、「考えてみよう」「説明しよう」「話し合おう」という活動が設定されています。日本文教出版では筋道を立てて話す例示と解き方の話し合いのポイントを示しています。東京書籍の場合は、図を使って考える問題を提示するコーナーを作ったり、啓林館は「学びを生かそう」コーナーで「説明しましょう」の問題を設けたりしています。そのように各社とも工夫されていると感じました。また、構成的にもカラーユニバーサルデザインに配慮したものになっており、図形、表、グラフなど、かなり意識されていると思います。

和田委員長…算数の中で子どもたちが躓くのは言葉の理解であると思います。例えば四捨五入や概数などの言葉をきちんと認識しないで次の段階に行ってしまうと、分かっているものとして説明がされていくので、躓きやすいと思います。言葉をきちんと定着させていくという視点で見たところ、東京書籍が最も優れているように思いました。また、他の委員が仰らないと思いますのであえて言っておきたいのは、そろばんの扱いについて各社ばらつきがあり、統一感がないと感じました。私はいわゆるデジタルな時代に対して、左手で珠が動かないように押さえて、声を聞いて指を動かすというアナログの最たるものであるそろばんは、3つの要素を一度に習得していくという、主要教科に珍しい体験的活動だと思っています。その点で見て、これをしたのでは、かえってそろばんの世界が何も分からなくなってしまうのではないかという教科書が結構多くありました。どの教科書もそろばんについては良いものがなかったので、そろばんの扱いについて私が望むのは、授業時数としてあてがわれているのでしょうから、教科書に頼らず、独自の教材研究により、補助教材などを使って欲しいなということでした。検討委員会からは特別に何かありましたでしょうか。

教育指導課長補佐…検討委員会からは、導入部やバランスの部分では東京書籍が良いという意見が多かったです。また、大日本図書も問題作成が工夫されている点や、啓林館の「学びを生かそう」コーナーでは、問題文が理解しやすいように関係図が出ている点が非常に分かりやすいという意見が出ていました。

和田委員長…大体の部分で、各委員の意見と一致すると思います。それでは、東京書籍、啓林館、大日本図書の3社を候補として、引き続き検討するということがいかがでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

⑥種目 理科

和田委員長…では次に理科の教科書についての検討に移ります。理科の教科書は、東京書籍、大日本図書、教育出版、学校図書、啓林館の5つの教科書ですが、

協議の観点をいくつか挙げていただきたいと思います。

前田教育長…理科の教科書選定にあたっての観点といたしましては、観察、実験、ものづくり、栽培、飼育の5つの活動は、問題解決の能力の育成に適した配列や内容になっているか、見通しを持って観察、実験などを行ったり、それらの結果を整理し、考察し、表現したりするために、図や表、挿絵などは適切に配列されているか、環境教育に関する図表や写真などの資料は児童の発達段階に即しているかなどが挙げられます。

和田委員長…観察、実験、ものづくり、栽培、飼育の5つの活動は、問題解決の能力の育成に適した配列や内容になっているかという点ですが、各社とも、子どもの発達や、ものの見方や考え方の特性に沿った内容を取り上げています。子どもが、自ら条件を制御して実験や観察を行い、規則性を見つけ出したり、一定の視点を意識しながら、自然を全体と部分で観察して、特性を整理したりする子どもの学びに基づいた内容に構成されているように思いますが、ご意見がありましたらお願いします。

前田教育長…実験や観察は子ども自身で再現して出来ないという意味がありませんので、その意味で大日本図書は、子ども自身の手で出来るように身近な材料を使ってその内容と方法を工夫しているように思います。また、実験面も豊富であり、例えば、5年生の「メダカの卵の変化」では、変化を観察する方法として、手取り皿、透明容器、着色ビニール袋など、色々な方法を提示されていると思います。

和田委員長…私は東京書籍の内容はあまりにきれいにまとまり過ぎて、丁寧過ぎて、逆に意欲を起こすのが難しいのではないかと感じました。もう少し荒削りのほうが、次の段階に対して、「もっと調べてみよう」、「もっと知りたい」という意欲が起こるのではないかなと思いました。最近の子どもや若者の状況を見ると、あまりにバーチャル化し過ぎていて、バーチャルがリアルだと錯覚してしまうという傾向があると言われていています。それはやはり、説明し過ぎなのではないかと思います。具体的に申し上げますと、低学年で蝶の成長について載っていますが、蝶が卵から幼虫、私たち実体験で学んできた人間は青虫と言いますが、その次にさなぎになって、最後に何になるかと聞くと、私たちの世界で言うと、蝶や蛾になると言うと思います

が、子どもたちは間違いなく成虫と答えると思います。このようにバーチャルの世界だけで知識を習得していくとペーパーテストには強くなるかもしれませんが、現実味に欠けるという傾向があり、東京書籍の低学年の教科書にはそのようなことを感じました。その点、先ほど前田教育長の話にもありましたが、大日本図書ではもう少し荒削りであり、色々な種類が多く、また、ポットで植えるのに牛乳パックを使っていたりしているなど、応用性、柔軟性があり、より良い教科書になっているのではないかと感じました。

山口委員…最近、理科離れということが言われていますが、理科というのは「なぜだろう」「どうしてだろう」という疑問を持って、それを解決したいという目的を持って、解決するためにはどうしたら良いかという方法を考えて、結果を出して、またそれについて考察するという流れをなくしてはいけないと思います。その流れに沿ってやっていけるのはどの教科書かということの色々と考えていたのですが、大日本図書は目次の次に「理科の学び方」というページがあり、そこに「なぜだろう」「どうしたら良いだろう」「どうだっただろう」という流れが大きく出ており、さらにそれぞれに沿って自由研究のページが各上巻の真ん中くらいにあったのですが、そこではその流れに沿って実験の計画を立てて、自分なりの考察や答えを導いて行くという、最初から理科を考えた流れが出来ていると感じました。自由研究のページは、大体どの会社の教科書にも載っていますが、例えば教育出版は2, 3年生の自由研究のページと、6年生の自由研究のページの説明が全く一緒でした。4年生以降はこのような例で行いましょうというものが多少は出てくるのですが、学年によって自由研究のやり方の説明が変わっていないのはおかしいと感じました。その点で大日本図書、啓林館、学校図書では学年に応じて変えています。学校図書で良かったのは、例えば3, 4年生は栽培が主だったのですが、4年生の途中から観察が増えてくるのでデジタルカメラの使い方が載っており、5, 6年生になるとレポートのまとめ方が出ており、学年に沿って自由研究をさせようとしているなど感じました。啓林館では巻末に資料集が出ているのですが、これはとても充実していると感じました。また、教育出版は「わくわくチャレンジ」とい

うページがあり、それは教科書や学習指導要領からは外れているのですが、さらに発展させる項目が出ていました。理科の実験を行っているとき「こうしたらどうなるのか」という疑問が出てくるものであり、それに近いような実験をしてみたらどうかという例が出ていたのが、授業で扱えるかは別ですが、理科好きにする良い欄だと感じました。

和田委員長…啓林館では3年生の段階から科学への道、方向性を明確に表しており、そういった内容で教材にも工夫が施されていると感じました。理数系を伸ばすという意味では論理的な積み重ねが素晴らしく、非常に良いと思いますが、それで躓いてしまうケースも起こるのではないかとという危惧もあると感じました。また、上級学年では、見通しを持って観察や実験などを行い、それらの結果を整理し、考察するためのプロセスはしっかりと踏んでいるのですが、図や表、挿絵などがかなり多く、込み入っており、配列に無理があるように感じました。その点では、学校図書ではそのプロセスが非常に分かりやすく工夫されていて、科学的な見方や考え方を育てるには適しているように感じました。

山田委員…先ほど、主体的に子どもが考えるように導くことが大事だという意見がありました。学校図書では細かい説明がされずに大まかな流れが示されており、子どもたちが主体的に自分で考えて実験などが出来るような配慮がされていると思います。

前田教育長…大日本図書や学校図書では理科の学び方を重視されており、問題解決、仮説検証型と言いますか、直感的な思考で想定して、実態を迫っていくための実験をし、それをまとめて発展させるというプロセスはとても良いと思うのですが、あまりにも直感的思考や予想を大事にして結論を導く方法に偏り過ぎると、私の経験では、予想が外れた子どもが大変がっかりしてしまいます。子どもに予想させた後に教師がもう少し大胆に結果を伝えて、実験してまとめて行くというやり方が出来ないのかなと思いました。どの教科書もきれいに問題解決学習の型にはまり過ぎているように感じました。

和田委員長…それについては算数教材を見ても私も感じました。導き方は何通りもあって良いのに、各社共通して一つの同じやり方で進めています。多様な考え方があって良いと思いますが、それについては現場の教師の力量次第なの

かなとも思いました。

それでは最後に、環境教育に関する図表や写真などの資料の扱い方についてはいかがでしょうか。

山口委員…各社とも環境教育の部分はしっかりと載せていました。具体的には地球の温暖化や二酸化炭素排出量の増加、風力・太陽光発電、LED電球のことなどは多くの教科書で載せていました。ただ、最近の新しい考え方で、輸入した食物が燃料を使ってどれくらいの距離を輸送されたかで食物が出している二酸化炭素を考えていこうとするフードマイレージというものを載せていたのが啓林館でした。また、同じように、例えば牛肉を輸入した場合に、その牛を育てるのに必要な水の消費量を計算し、その食物を輸入するのにどれだけ水を使ったかということを考えさせるバーチャルウォーターというものを載せていたのが、大日本図書でした。このような新しい考えを取り上げていることはすごいと感じました。

和田委員長…検討委員会では何か意見はありましたでしょうか。

教育指導課長補佐…検討委員会では環境教育という部分では特に意見はなかったのですが、理科こそ課題解決型学習が進められる教科書が良いであろうという考えで、大日本図書と学校図書を推されていました。

和田委員長…全体を総合して、各委員から出てきたのは、検討委員会と同じく、大日本図書、学校図書が候補で出て来ましたこの2社を候補として、引き続き検討するということがいかがでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

⑦種目 音楽

和田委員長…では本日の最後になりますが、音楽の教科書についての検討に移ります。

音楽科の教科書は、東京書籍、教育出版、教育芸術社の3社の教科書ですが、協議の観点をいくつか挙げていただきたいと思います。

前田教育長…音楽の教科書選定における内容選択の観点といたしましては、表現や鑑賞の教材は、多様な音楽の中から児童の発達の段階に応じて適切に選択されているか、表現や鑑賞及び共通事項の学習内容が相互に関連しながら取り

扱われ、音楽活動の基礎的な能力を培う学習の展開は工夫されているか、我が国や郷土の伝統音楽を扱う学習内容は充実しているかなどが挙げられます。

和田委員長…内容、構成・分量、表記・表現ともにどの教科書もそれぞれ工夫がなされているようですが、最初に内容についてはいかがでしょうか。

山田委員…仕方がないことなのですが、音楽や美術、図工、家庭などはわりと時間数が少ないです。ただ、子どもたちにとって芸術はとても大事なもので、子どもの心を開放し、自分の感情を表現出来る、とても素晴らしいものなので、音楽科の時間が子どもたちにとって素晴らしいものになればと思います。また、音楽は世界共通のものであり、音楽を通じて心が触れ合うことが出来るので、素晴らしいものだと思います。内容で言いますと、まず東京書籍は、子どもたち、特に1年生などが楽しく、遊びながら表現活動が出来るように工夫されていると思いました。それから、日本の音楽、世界の音楽、アジアの音楽と分けてページを割いており、また、沖縄の音楽のページもあり、子どもたちが普段触れることが少ないと思うので、とても良いと思いました。教育芸術社は子どもたちにとってとても親しみやすく歌いやすい歌が学年に応じて取り上げられていると思いました。また、曲のイメージに合った美しい写真が載っており、子どもたちも思いを乗せて歌うことが出来るのではないかと思います。どの会社もそうですが、後ろのほうのページに音符の長さや表示記号などの楽程が載っており、とても分かりやすいと思いました。また、共通教材として「心の歌」というページがそれぞれの学年にあり、例えば2年生の「夕焼け小焼け」、3年生の「春の小川」、4年生の「紅葉」、6年生の「おぼろ月夜」といった、私たち日本人が忘れてはならないようなとても大切にしたい歌が取り上げられているのがとても良いと思いました。それから、教育出版ですが、一番感じたのは、音楽の基本的な力がとてもよく付くのではないかと思います。特に和声・ハーモニーの作り方や、音の重なり具合などのページは3社の中でも、最も子どもたちが入りやすい取り扱いをしているように思いました。6年生でベートーベンの「運命」という曲を、指揮者とオーケストラを変えて、どれくらい違うのかという聴き比べのようなものがあり、

とても面白く素晴らしい取り組みだと思いました。5年生の教科書では指揮者の小澤征麿氏から、6年生ではヨーヨー・マ氏から子どもたちへのメッセージとして、音楽の喜びや、心を表現する大切さなど、とても良い文章が載っているので、とても素晴らしく、大事なことではないかと思いました。また、教育出版の教科書では各学年に応じて、聴く力や演奏する力がとてもよく身に付く工夫がしてあると感じました。

3社ともとても楽しい内容だと思いますが、私は教育出版が最も優れているのではないかと思いました。

和田委員長…桑原委員は欠席ですが、事務局に意見は届けられていますか。

教育指導課長補佐…桑原委員は教育出版を推されていました。理由としては、一流の音楽家による幅広い人選による編集がなされていること、選曲が音楽的に優れていること、季節感に溢れて、視野の広い内容を取り上げられていること、楽しさとともに基礎的な力を身に付けるしっかりとした骨組みとなっている教科書であることの4点を挙げられていました。

和田委員長…飛び抜けた専門的な知識は何もないため、時間を費やして一生懸命に勉強しましたが、私が感じたことは、特に低学年において、例えば、身体を動かしながら音楽を感じるといったように、音楽の授業が楽しくなるような取り組みに重点が置かれている編集がされているなどと思いました。それから、みんなと一緒にやるという部分では、高学年になっても、相手の節を聴くとか、二つの節の感じの違いに気付くとか、音楽は相手があって成り立つというところで、低学年から高学年まで一貫していたように感じました。教育芸術社では、特に音楽の基礎的な事項を体系的に取り扱っているという点で、子どもたちの発達の段階に応じたものになっているのではないかと思います。正直に申し上げまして、教育出版は、私は結構レベルが高く、少し抵抗感がありました。

次に、構成・分量・装丁の部分ではいかがでしょうか。

前田教育長…構成の部分では、我が国や郷土の伝統音楽や日本人の心情という部分で、どのような楽曲を扱っているかがポイントになるのではないかと思います。その点ではどの会社も昔からの歌を扱っており、教育出版では雅楽、和楽器、歌舞伎まで扱っています。ただ、子どもも含めて現場がどの程度、な

じむかも課題であると思います。かといって今風の音楽を多く入れて、10年経って何も心に残らないというのは困るし、中々難しい判断だと思っています。教育出版の教科書は大変素晴らしいとは思いますが、教育現場で扱う時に、子どもたちの受け止めの部分についてもしっかりと考えなければならぬと思います。

和田委員長…私も同じような印象を受けました。専門家にとっては非常に大切な要素なのかもしれないが、全ての子どもが学習に楽しんで取り組めるかどうかは現場の先生の力量によると感じました。その点で、教科書選択は難しいと感じました。

それでは全体としては何かありますでしょうか。

山田委員…それぞれの教科書において音楽に対する思いや、子どもたちが音楽を好きになって欲しいという思いを感じました。それぞれの教科書にそれぞれの良さがあると思います。教育出版については、前田教育長や和田委員長が少し難しいと仰られていましたが、私はすごく自然に基本がきちんと身に付くのではないかと感じました。

和田委員長…本日は各社の良いところの確認や、不足している部分の指摘が出ましたので、次回まで引き続き検討するということができればでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…本日は、これで各種目ごとの協議を終了いたしますが、7月29日の教育委員会定例会の中で、引き続き残りの各種目ごとの協議を行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(4) 委員長閉会

平成22年8月24日

委 員 長

署名委員（山田委員）

署名委員（前田委員）